

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	現代文	単位数	2	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	第一学習社 高等学校 改訂版新編現代文				
副教材等	テスト式 国語常識の総演習〈修訂二版〉				

2 学習目標

・基礎的な語彙, 漢字, 表現技巧を学び自由に活用できる力を養う。 ・さまざまなジャンルの文章に触れ, 読み味わうことで語彙力, 読解力を身につける。また読書をする喜びを体験し, 視野や思考の幅をひろげ, 自らの考えを深める。 ・自分の考えと意見を表現できる語彙と表現力を身に付け自己アピール, コミュニケーション能力を高める。
--

3 学習方法

① 教科書を繰り返し音読する。 ② プリントを用いて漢字の練習を行う。 ③ ワークシートを利用し読解を深める。 ④ 作者の他の作品を読み味わい読書の幅を広げる ⑤ 副教材を利用して, 一般常識や表現力を養成する

4 学習計画

学期	月	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	オリエンテーション 自己を見つめる 『自分を知ることがいちばんおもしろい』	・1年間の学習計画を理解する。 ・「自己とは何か」という問いを通して、他者や世界といかにつきあうかを考える。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント, ワークシート及びノートの提出。 ・辞書等を用いて, 正しく表現できたか。
		国語常識の総演習第1回A・B	・副教材の問題演習。	・副教材の提出。
	5	小説を読む (一) 『雨傘』	・小説を読むことが、生徒自身の体験と密接に結びつくものと気付く。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字・語彙が理解, 習得できたか。 ・辞書等を用いて, 正しく表現できたか。
		国語常識の総演習第1回C・D	・副教材の問題演習。	・副教材の提出。
	6	身近な発見 『わざわざ書く』	・身近にあるもの・ことを例に用いた文章を読み、エッセイを読む楽しさを知る。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント, ワークシート及びノートの提出。 ・辞書等を用いて, 正しく表現できたか。
	7	国語常識の総演習第2回A・B	・副教材の問題演習。	・副教材の提出。
	9	人生の風景 『出島のチューリップ』	・文章を読み、今までの人生の中で心に残った「風景」を考え、説明する。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント, ワークシート及びノート提出。 ・辞書等を用いて, 正しく表現できたか。
		国語常識の総演習第2回C	・副教材の問題演習。	・副教材の提出。

第 2 学 期	10	・ D 創作の楽しみ 『短歌と俳句』	・ 近現代短歌・俳句に親しみ、 情景や心情を把握し、より 深く味わう鑑賞のしかたを 身につける。 ・ 副教材の問題演習。	・ 短歌・俳句を味わうことがで きたか ・ 意欲的に作業に取り組むこと ができたか。 ・ 副教材の提出
		国語常識の総演習第3回A ・ B		
	11	現代と世界 『ステレオタイプの危険性』	・ 文章の構成を把握し、抽象 的な事柄に対する理解を深 める。 ・ 副教材の問題演習。	・ 文章の構成、内容の理解がな されたか。また語彙を理解す ることができたか。 ・ ノート提出。 ・ 副教材の提出。
		国語常識の総演習第3回C ・ D		
	12	小説を読む（二） 『ナイン』	・ 人物の言動から性格・心理 などについて、的確に把握 する。 ・ 副教材の問題演習。	・ 内容を理解することができた か。 ・ ノート提出 ・ 副教材の提出。
		国語常識の総演習第4回A ・ B		
第 3 学 期	1	小説を読む（三） 『鼻』	・ すぐれた短編小説の持つ、 緊密な構成を理解し、鑑賞 のしかたを学ぶ。	・ 文章の構成、内容の理解がな されたか。また語彙を理解す ることができたか。 ・ ノート提出。 ・ 副教材の提出。
	2	国語常識の総演習第4回C ・ D	・ 副教材の問題演習。	
	3	文章の広場 『実用の文章』	・ 広報文や白書などの具体例 を通じて、実用の文章の種 類や特質などを理解する。	・ イラストや写真など、文章以 外の表現が果たす役割につい て考察を深めることができた か。 ・ ノート提出。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す三つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は三つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 授業・教材に対する「関心・意欲・態度」	教科書・ノートをきちんと用意し、ワークシート、漢字練習等のプリントを提出したか。
2 読解力・表現力	内容を理解し、それを文章によって表現できたか。
3 漢字力・語彙力	漢字テストで合格できたか。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

学習状況の観察・提出物・ノート・定期考査によって評価します。

平成24年度 古典講読のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	古典講読	単位数	2	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	右文書院 新古典講読 説話・随筆・故事・小話・漢詩				
副教材等	なし				

2 学習目標

古典としての古文と漢文を読むことによって、我が国の文化と伝統に対する関心を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

3 学習方法

- ① 教科書を繰り返し音読する。
- ② プリントを用いて読解を深める。
- ③ 作品のものの見方や感じ方, 考え方を話し合う。

4 学習計画

学期	月	学習内容(単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	古文 古今著聞集「母子猿」	①何度も繰り返し音読し, 古文のリズムに慣れる。 ②1, 2年次に学習した歴史的仮名遣いの特徴を再確認する。	①音読することによって, 古文のリズムに慣れ, 正しく読むことができたか。 ②歴史的仮名遣いの読み方が習得できているか。 プリントの提出
	5	沙石集「児の飴食ひたること」	①何度も繰り返し音読する。	①歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し, 正しく読むことができたか。
	6		②古語辞典を利用して, 本文に適した意味を捉える。 ③係り結びを理解する。 ④話のあらすじを捉え, おもしろさを味わう。	②古語辞典の引き方を習得できたか。 ③係り結びが理解できたか。 ④本文を読み味わうことができたか。 プリントの提出
	7	十訓抄「文字一つの返し」	①何度も繰り返し音読する。 ②活用語は終止形に直し, 古語辞典を利用して, 本文に適した意味を捉える。 ③係り結びを理解する。 ④話のあらすじを捉え, おもしろさを味わう。	①歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し, 正しく読むことができたか。 ②活用語は終止形に直して, 的確に古語辞典を引くことができたか。 ③係り結びが習得できたか。 ④本文を読み味わうことができたか。 プリントの提出。
第2学期	9	徒然草「つれづれなるままに」	①出典について理解する。 ②暗唱するまで繰り返し音読する。 ③古語辞典を利用して, 正確な解釈をする。 ④『徒然草』執筆の動機や態度をまとめる。	①作品や作者について理解できたか。 ②暗唱できたか。 ③正確に解釈することができたか。 ④作品執筆の動機や態度が理解できたか。 プリントの提出
	10	徒然草「これも仁和寺の法師」	①何度も繰り返し音読する。 ②古語辞典を利用して, 正確な解釈をする。 ③話のあらすじを捉え, おもしろさを味わう。	①正しく読むことができたか。 ②的確に古語辞典を引き, 正確に解釈することができたか。 ③本文を読み味わうことができたか。

平成24年度 数学Ⅰのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	数学Ⅰ	単位数	2	履修学年・区分	第2学年Bコース(選択)
使用する教科書	第一学習社 高等学校 新数学Ⅰ				
副教材等	第一学習社 ウィズ数学Ⅰ				

2 学習目標

数学とは、決まったルールに則って発展し世界が広がる学問です。まず皆さんにはルールを覚えてもらうこと、それに基づいて計算していくことが必要になります。
 具体的には、展開や因数分解の仕方、方程式と不等式を解き方、2次関数のグラフのかき方、三角比を利用して辺の長さ、角の大きさ、面積の求め方などを身につけることです。

3 学習方法

大切にして欲しいのは授業です。授業をしっかり聞いてノートを取り、授業中の演習の中で理解を深めて欲しいと思います。また、問題集などでの復習を通して、理解した内容を定着させましょう。
 1年次の学習で不足している部分を学習していくとともに、全体を復習していきます。

4 学習計画

学期	学習内容(単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4章 図形と計量 1. 直角三角形と三角比 2. 三角形と三角比	- 直角三角形 - タンジェント - サインとコサイン - 三角比の利用 - 三角比の相互関係 - 三角形の面積 - 正弦定理 - 余弦定理 - 鈍角の三角比 - 空間図形の計量	三角比の定義から、三角比の値を求めることができる。三角比の表を利用して、辺の長さを求めることができる。三角比の相互関係を導き、利用することができる。 正弦を利用し三角形の面積を求めることができる。正弦定理、余弦定理を利用することができる。鈍角まで拡張した三角比を理解できる。
第2学期	3章 2次関数 2. 2次関数の値の変化	- 相似な図形の面積比, 相似な図形の体積比 - 球の表面積と体積 2次関数の最大値・最小値 2次関数のグラフと2次方程式 2次関数のグラフと2次不等式	相似な図形の面積比, 体積比を理解でき、それを利用することができる。球に関わる図形の計量を求めることができる。 2次関数の最大値・最小値をグラフを利用して求めることができる。2次方程式の解のグラフ上での意味を理解できる。2次関数のグラフを利用して、2次不等式が解ける。
第3学期	数学Ⅰ全体	・問題集, プリント演習	数学Ⅰの学習内容を理解できる。

5 学習評価

評価については、次の4つのポイントを考慮します。

- ・1年間に5回行われる定期考査での得点
- ・毎回の授業時間の取り組み姿勢
- ・提出物の状況
- ・出欠席の状況

授業を大切にし、その場その場で理解して次の学習につなげられるようにしましょう。

平成24年度 数学Aのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	数学A	単位数	3	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	啓林館 高等学校 新数学A				
副教材等					

2 学習目標

集合, 順列, 組合せ, 確率について学習します。どの単元においても, 身の回りで起こる現象と関連づけて学習することで, 数学的な見方・考え方のよさを認識し, それらを積極的に活用していくとよいでしょう。

3 学習方法

大切にしたいのは授業です。授業をしっかりと聞いてノートを取り, 授業中の演習の中で理解を深めて欲しいと思います。また, 問題集などでの復習を通して, 理解した内容を定着させましょう。
ぜひ, 苦労して解けたときの喜びを味わってください。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	1章 場合の数 1. 集合	- 部分集合 - 共通部分と和集合 - 空集合と全体集合 - 集合の要素の個数	集合の考え方を身につける。集合の共通部分や和集合を求めたり, それらの要素の個数を求めることができる。
	2. 順列	- 和の法則・積の法則 - 順列 - 重複順列	和の法則・積の法則を理解する。順列の総数を求める公式を理解し, これを用いて具体的な順列の総数を求めたり, 重複順列を用いて場合の数を求めることができる。
第2学期	2. 組合せ	- 組合せ - 組合せの性質 - 二項定理	組合せの総数を求める公式を理解し, これを用いて具体的な組合せの総数を求めることができる。二項定理について理解し, 簡単なものについて, 二項定理を用いて展開式を求めることができる。
	2章 確率 1. 確率の意味	- いろいろな確率 - 確率の計算	試行, 事象など確率の学習で用いる用語の意味を理解し, 具体的な事例について, これらの用語を用いて説明できる。簡単な事象の確率を求めることができる。
第3学期	2. 確率の加法定理	- 排反事象の確率 - 余事象の確率	排反事象について理解し, 簡単な排反事象の確率を求めることができる。余事象について理解し, 簡単な排反事象の確率を求めることができる。
	3. 独立な試行	- 独立な試行の確率 - 反復試行の確率	試行の独立について理解し, 簡単な独立な確率を求めることができる。反復試行について理解し, 簡単な反復試行の確率を求めることができる。
	4. 期待値	期待値の計算	期待値の意味を理解し, 簡単な事象の期待値を求めることができる。

5 学習評価

評価については、次の4つのポイントを考慮します。

- ・1年間に5回行われる定期考査での得点
- ・毎回の授業時間の取り組み姿勢
- ・提出物の状況
- ・出欠席の状況

授業を大切にし、その場その場で理解して次の学習につなげられるようにしましょう。

平成 24 年度 理科総合 B の学習（シラバス）

1. 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	理科総合 B	単位数	3	履修学年・区分	第 2 学年
使用する教科書	改訂 理科総合 B（大日本図書）				
副教材等	改訂理科総合 B 問題集（大日本図書）				

2. 学習目標

地球は太陽系の中で、海と生物が存在する唯一の惑星です。生物が誕生してから現在まで、生物は周囲の環境と無関係でいられたことはかつて一度もありません。生物と地球環境は互いに影響を及ぼしながら長い時間を掛けて現在の姿を作り上げてきました。

理科総合 B では、地学・生物分野に関する観察，実験などを通して、生物とそれを取り巻く環境を中心に、自然の事物・現象について理解するとともに、人間と自然とのかかわりについて考えて、自然に対する総合的な見方や考え方を養うことを目標とします。

3. 学習方法

- ① TV 番組や新聞記事にも理科総合 B の内容を扱ったものは数多く見られます。興味ある分野は自分から積極的に触れていきましょう。
- ② ノートはただ板書を写すだけでなく、自分に分かりやすいようにまとめましょう。
- ③ 授業の復習を問題集やプリントを使用して適宜行い、知識の定着を図りましょう。
- ④ 実験・観察はその目的や方法をきちんと理解した上で臨みましょう。また、実験結果から考察を導くことも忘れないように。

4. 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学期	4	序章 自然の探究 1 理科総合 B で何を学ぶのか 2 川を調べよう		
	5	第 1 章 地球の移り変わり 1 宇宙から見た地球 A 太陽系と惑星 B 水の惑星「地球の誕生」	太陽系の成り立ちと太陽系惑星の特徴を理解します。 地球型惑星と木星型惑星の違い、および太陽との関係を理解します。	・太陽系の構造を理解する。 ・地球型惑星と木星型惑星の特徴および太陽との関係を理解する。 ・地球だけが水と生命のある星になった理由を理解する。
		第 1 学期中間考查 範囲 教科書 P. 13～P. 24		

平成24年度 ビジネス基礎のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	ビジネス基礎	単位数	2	履修学年・区分	第2学年Aコース
使用する教科書	ビジネス基礎 新訂版 (実況出版)				
副教材等					

2 学習目標

- ①ビジネス用語を覚えましょう。
- ②身近な事柄に結びつけて、ビジネスを理解しましょう。
- ③全国商業高等学校協会主催珠算・電卓実務検定試験を受験し、資格を取得しましょう。
- ④世の中の情報やビジネスへの関心を高めましょう。

3 学習方法

- ①板書事項をノートにまとめます。
- ②練習問題を解き、授業内容の理解を深めます。
- ③ビジネス用語の漢字や読みがきちんと書けるように練習します。
- ④電卓学習では、正確で速い計算能力を身に着けるよう、繰り返し練習します。
- ⑤新聞やインターネットからの情報を提示し、ビジネスへの関心を高めます。

4 学習計画

学期	学習内容 (单元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	第1章 商業の学習ガイダンス ①商業科目を学ぶ意味, 心構え	・ビジネスで必要とされる能力	・ビジネス社会を生き抜く為に必要な資質について理解できたか。
	第2章 経済のしくみとビジネス ①経済のしくみとビジネス	・有形財, 無形財, 経済主体等	・経済の基本を理解できたか。
	②ビジネスのことを学ぼう	・身近な企業と結びつけ, ビジネスの種類・活動を知る ・消費者ニーズ	・ビジネスの種類・活動を理解し, 企業例を挙げることができたか。 ・消費者ニーズの変化に気づくことができたか。
	③ビジネスの役割, ビジネスの発展	・国際化, 情報化, サービス経済化	・経済を取り巻く環境の変化やそれに伴う課題について, 理解できたか。
	④ビジネスの発展がもたらした課題 第1学期期末考査	・環境問題等 ○プリントを使って復習	・問題点や課題を理解できたか。 ・プリント・ノートの提出。
第2学期	第4章 ビジネスと売買取引	①電卓実務検定試験3級の学習 ・普通計算	・電卓が正確に使えるか。 ・速く, 正確な計算ができるか。
	第4章 ビジネスと売買取引	②電卓実務検定試験3級の学習 ・ビジネス計算	・速く, 正確な計算ができるか。 ・ビジネスに関する計算が理解できたか。
	第2章 経済のしくみとビジネス ⑤ビジネスに対する心構え	・望ましい人間関係 ・身近な企業と結び付け, 企業理念, 起業家精神を知る	・望ましい人間関係がビジネスでも大切であることが理解できたか。 ・企業理念や起業家の考えを知ることができたか。
	第3章 ビジネスと流通活動 ①経済活動と流通 第2学期期末考査	・流通とは ・F A化 ・流通のはじまりと発展 ○プリントを使って復習	・流通が果たす役割を理解できたか。 ・流通の起源や成り立ちが理解できたか。 ・プリント・ノートの提出。

第3学期	第3章 ビジネスと流通活動 ②流通活動の特徴	・流通と消費の隔たり ・流通機構と流通経路 ・業態と業種	・流通経路やとりまく環境の変化について理解できたか。 ・商品によって流通経路が違うことを理解できたか。
	学年末考査	○プリントを使って復習	・ <u>プリント・ノート</u> の提出。

5 学習評価

- ①定期考査の点数。
- ②ノートやプリントの取り組み状況及び提出状況。
- ③授業中の小テストの点数。
- ④電卓検定試験にむけての練習状況・点数。
- ⑤ビジネスへの関心の高さ。
- ⑥授業中の学習態度。（毎時間が評価の対象となります。真剣な取り組みが大切です。）

以上を総合的に判断し、評価します。

平成24年度 英語 I の学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	英語 I	単位数	2	履修学年・区分	第2学年Bコース（選択）
使用する教科書	VISTA English Series I New Edition（三省堂）				

2 学習目標

◎ 以下の目標に沿って，1年生の内容に積み重ねて発展的に英語 I を学習します。

- ・ボキャブラリの充実
- ・基礎的な英文法の定着
- ・英語を使ったコミュニケーション力の伸長
- ・異文化に対する興味や関心の増強

3 学習方法

1年生の時と同様に，以下の3点に留意して学習しましょう。

- ① 高校での学習の基本は授業です。先生の話をよく聞く。大事なところを確実にノートに書きとる。電子辞書をたくさん使う。宿題をしっかりとやる。課題をきちんと提出する。これらのことを着実にこなせば，どんどん英語の力はつきます。進路希望実現を目指して，「授業を大切に」勉強しましょう。
- ② 次の授業に備えての予習やその日に学習したことの復習は，英語学習に不可欠です。毎日机に向かい，教科書を開く。その習慣を身につけましょう。
- ③ 定期考査の準備は，時間をかけて精一杯やりましょう。テスト対策は，学習したことを確実に身につけるための最高の機会です。しっかり準備すれば高得点に結びつきます。高得点は自信を生みます。「準備→高得点→自信」，このサイクルを手に入れましょう。

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	L7 Happy Birthday to You! 誕生日にまつわる各国の慣習について学ぼう。	動名詞の用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・動名詞の使い方を理解できたか。 ・新出言語材料は身についたか。
	L8 Oki, an Ainu Musician アイヌ民族や伝統文化について学ぼう。	現在完了とhow to ～の用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・現在完了のはたらきを理解できたか。またhow to ～を用いた表現ができるか。 ・新出言語材料は身についたか。
	Jump-up English	1. 代名詞 2. be動詞の用法 3. 一般動詞の用法	・代名詞を正確に用いて表現することができるか。 ・主語や時制に対応して，be動詞の使い分けができるか。疑問文及び否定文への書き換えはできるか。 ・主語や時制に対応して動詞を活用できるか。また，疑問文及び否定文への書き換えはできるか。

第 2 学 期	L9 Footpaths 「フットパス文化」を知り、 景観保全について考える。	受け身の用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・受け身を用いた表現ができるか。 ・新出言語材料は身についたか。
	L10 Finding My Way 挑戦することの大切さを学ぼう。	関係代名詞の用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・関係代名詞のはたらきを理解できたか。 ・新出言語材料は身についたか。
	Jump-up English	4. 疑問詞	・疑問詞の意味とつづりを確実に覚えることができたか。 ・進行形進行形を用いた表現ができるか。また、疑問文及び否定文への書き換えはできるか。 ・いろいろな助動詞の意味とつづりを確実に覚えることができたか。また、疑問文及び否定文への書き換えはできるか。 ・不定詞の意味と用法を理解することができたか。
		5. 進行形	
第 3 学 期		6. 助動詞	
		7. 不定詞	
	L11 Landmines 地雷の実態に触れることを通して、戦争や平和について考えよう。	分詞の形容詞的用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・基本動詞の活用を覚えることができたか。また分詞が形容詞的に用いられる機能を理解できたか。 ・新出言語材料は身についたか。
	L12 The Bus Boycott 人種差別について考えよう。	使役動詞と知覚動詞の用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・使役動詞と知覚動詞を用いた表現ができるか。 ・新出言語材料は身についたか。
	Jump-up English	8. 現在完了形	・現在完了形の意味と用法を理解することができたか。 ・意味の違いに応じて、適切に比較変化をさせることができるか。
		9. 比較	

5 学習評価

英語の成績を評価するときに、最も重視されるのは定期考査の結果です。君たちが年に5回実施される定期考査で何点を取るのか。それが大切であることはいままでもありません。

しかし、テストの点数だけで成績が決まるわけではありません。私たちは、君たちの毎日の学習態度にも注目します。以下の項目が成績評価の重要な資料になります。要するに、普段の努力が大切ということです。

★授業に取り組む姿勢

きちんとした態度で話を聞いているか、ノートをしっかりと取っているか、活動には積極的に取り組んでいるかなど。

★提出物

宿題や課題に着実に取り組んで、きちんと提出しましょう。

平成24年度 英語Ⅱの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	英語Ⅱ	単位数	4	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	VISTA English Series Ⅱ New Edition（三省堂）				

2 学習目標

- ◎1年生のときと同様に，下の4点を目標に学習します。
- ・「ボキャブラリー」を増やそう。
 - ・基本的な英文法をしっかりと身につけよう。
 - ・簡単な英語を使って，コミュニケーションに挑戦しよう。
 - ・外国の文化に興味や関心を持とう。

3 学習方法

◎英語学習にマジックはありません。「地道にコツコツ，すべきことを続ける」，これこそ最高の学習方法です。では，「すべきこと」とはなんでしょう？答えは，下記のとおりです。

① 高校での学習の基本は授業です。先生の話をよく聞く。大事なところを確実にノートに書きとる。辞書をたくさん使う。宿題をしっかりとやる。課題をきちんと提出する。これらのことを着実にこなせば，どんどん英語の力はつきます。

② 次の授業に備えての予習や，その日学習したことの復習は，英語学習に不可欠です。毎日机に向かい，教科書を開く。その習慣を身につけましょう。

③ 定期考査の準備は，時間をかけて精一杯やりましょう。テスト対策は，学習したことを確実に身につけるための最高の機会です。しっかり準備すれば高得点が取れます。高得点は自信を生みます。「準備→高得点→自信」，このサイクルを手に入れましょう。

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	1年生の復習	1年生で学習した，基礎的なボキャブラリーと文法を再確認する。	・基本的な単語や熟語は身につけているか。 ・主に動詞の用法に関して，基礎的な文法事項は身につけているか。
	L1 Whistle Communication コミュニケーションの多様性について考えよう。	比較級と接続詞の用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・比較級を用いて表現活動を行うことができるか。 ・基本的な接続詞とその用法について理解できたか。 ・新出言語材料は身についたか。
	Step-up English	1. 代名詞 2. be動詞の用法 3. 一般動詞の用法	・代名詞を意味の違いに応じて活用できるか。 ・主語や時制に対応して，be動詞の使い分けができるか。また，疑問文及び否定文への書き換えはできるか。 ・主語や時制に対応して動詞を活用できるか。また，疑問文及び否定文への書き換えはできるか。

第 2 学 期	L2 Cathy Freeman 民族や文化の多様性について考えよう。	・ 原形不定詞の基礎的な用法について理解する。 ・ 関係代名詞whatの用法について理解する。	・ 本文の内容は理解できたか。 ・ 原形不定詞を用いた表現をすることができるか。また関係代名詞whatのはたらきについて理解できたか。 ・ 新出言語材料は身についたか。
	L3 The Evil Eye さまざまな文化の共通性について考えよう。	不定詞の発展的な用法について理解する。	・ 本文の内容は理解できたか。 ・ 「動詞＋人＋不定詞」を用いた表現をすることができるか。「原因・理由」を表す不定詞の用法を理解できたか。 ・ 新出言語材料は身についたか。
	L4 India インドについての英文を読むことを通して、異文化認識を深めよう。	・ 部分否定の用法について理解する。 ・ 疑問詞を用いた譲歩の考え方について理解する。	・ 本文の内容は理解できたか。 ・ 部分否定の考え方を理解できたか。また、疑問詞を用いた譲歩の表現をすることができるか。 ・ 新出言語材料は身についたか。
	Step-up English	4. 疑問詞 5. 進行形 6. 助動詞	・ 疑問詞の意味とつづりを確実に覚えることができたか。 ・ 現在進行形と過去進行形を用いた表現ができるか。また、疑問文及び否定文への書き換えはできるか。 ・ いろいろな助動詞の意味とつづりを確実に覚えることができたか。また、疑問文及び否定文への書き換えはできるか。
第 3 学 期	L5 Guernica:A Symbol of Peace ピカソの「ゲルニカ」について知ることを通して、平和の大切さを学ぼう。	助動詞の発展的な用法と挿入節の使い方について理解する。	・ 本文の内容は理解できたか。 ・ 「助動詞＋完了形」を用いた表現をすることができるか。また、疑問詞を使った文に節を挿入する考え方が理解できたか。 ・ 新出言語材料は身についたか。
	Step-up English	7. 不定詞 8. 現在完了形 9. 比較	・ 不定詞の意味と用法を確実に理解することができたか。 ・ 現在完了形の意味と用法を確実に理解することができたか。 ・ 意味の違いに応じて、適切に比較変化をさせることができるか。

5 学習評価

評価の仕方は1年生のときとまったく同様です。2年生でも、最も重視されるのは定期考査の結果です。年に5回実施される定期考査で何点を取ることができたのか。まず、それが大切です。

また、君たちの毎日の学習態度にも注目し、以下の項目を成績評価をする際の重要な資料とします。

★授業に取り組む姿勢

きちんとした態度で話を聞いているか、ノートをしっかり取っているか、活動には積極的に取り組んでいるかなど。

★提出物・・・きちんと仕上げて、期日までに提出できているか。

◎要するに、「テストの得点+普段の努力」が大切ということです。

平成 24 年度 保健のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	保健	単位数	1	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	最新保健体育 (大修館書店出版)				
副教材等	最新保健ノート (大修館書店出版)				

2 学習目標

人は生涯の各段階で、さまざまな健康問題に出会います。まず、思春期である今の心や体を理解し、適切に行動できるようにすることが目標です。また、中高年期においていずれ出会うであろう健康課題や、それぞれの段階で必要となる保健・医療機関の活用・自然環境や社会の制度・食品の問題・労働と健康について学び、生涯を通じた健康を理解することを第二の目標とします。

3 学習方法

社会の大きな変化の中で、健康や安全の問題は多様化しています。①新聞や雑誌、テレビ番組やニュースで、保健(健康問題も含む)の内容を扱ったものは意識的に見るように心がけましょう。②健康問題とその対策について学びます。③実習を通して実際の生活の中で使うことがあるかも知れないことをしっかり身に付けましょう。

4 学習計画

学期	学習内容(単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	生涯を通じる健康 1 思春期と健康 2 性への関心・欲求と性行動の選択 3 妊娠・出産と健康 4 避妊法の選択と人工妊娠中絶 5 結婚生活と健康	- 女性の生殖器 - 男性の生殖器 - 男女の違い - 受精, 妊娠, 出産 - コンドームとピル - 結婚	- 女性の月経・排卵や男性の射精などの性機能を理解することができたか。 - 性意識に関する男女差を理解できたか。 - 受精・妊娠・出産の過程を説明できたか。 - マタニティーブルーを理解できたか。 - 家族計画の意義や方法を理解できたか。 - 健康な結婚生活を考えることができたか。
第2学期	6 加齢と健康 7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 健康で安全な社会づくり 社会生活と健康 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁, 土壌汚染と健康 3 環境汚染を防ぐ取り組み	- 老化, 骨粗いしょう症 - 保健所と保健センター - 医療保険のしくみ - インフォームド・コンセント - カット・オフ・エフェクト - バリアフリー - ユニバーサルデザイン - 公害病	- 加齢による変化を理解することができたか。 - 保健所や保健センターを活用することができたか。 - 医療保険のしくみを理解できたか。 - 医師に対し受け身でなく積極的に情報を得て判断する努力が必要なことを理解できたか。 - 汚染源や健康被害を及ぼす条件を説明できたか。 - 環境問題を積極的に調べて、自分にできることを実践しようとしたか。
第3学期	4 ごみの処理と上下水道の整備 5 食品の安全を守る活動 6 働くことと健康 7 働く人の健康づくり	- 循環型社会 - 食中毒予防 - 労働災害 - メンタルヘルスケア	- 日常生活の中で実践できているか。 - 職業病や労働災害を防ぐために、雇用者及び働く人自身がどのような取り組みが必要なのかを理解できたか。

5 学習評価

学習活動の中で、グループでの調べ学習や発表、ロールプレイング実習などを取り入れていきます。それらの活動への取り組み方や実際に活用できるかが重要です。そのことが理解されているかを確認するための定期考査(学期1回ずつ)も成績評価をする際の重要な資料となります。

※テストの得点+授業への取り組み姿勢+技能習得+提出物

平成24年度 家庭総合のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	家庭総合	単位数	2	履修学年・区分	2 学年 (1・2 学年各 2 単位の分割履修)
使用する教科書	新家庭総合～ともに生きる くらしをつくる～ (教育図書)				
副教材等	なし				

2 学習目標

- ・身近な生活の中から課題を見出し, 解決に向けて主体的に取り組める能力を養います。
- ・家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけます。

3 学習方法

- ①教科書や補助資料から基礎的知識を学ぶ。
- ②調理実習や被服製作実習を通し, 基礎的技術を身につける。
- ③習得した基礎的な知識・技術を実験や体験を通し, 科学的・理論的に学ぶ。
- ④視聴覚教材や統計資料・新聞等から身近な課題を考える。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学期	《単元》くらしのなかの「食」 ①食生活について考えよう ②栄養と食品 ③食品の選択と取り扱い ④献立と調理 ⑤これからの食生活と環境 ⑥食の文化と伝承 ※家庭科技術検定食物調理 4 級受検対策 (期末考査)	《ねらい》 豊かな食生活を実現させるため, 栄養・食品・調理などについて科学的に理解させ, 必要な技術を習得する。また, 食文化の関心を深めるとともに, 環境に配慮した食生活に実現を目指す。 《具体的活動》 ①講義 ②講義 ③調べ学習 ④調べ学習・講義・実習 ⑤実習 ⑥調べ学習・講義 ※実技・講義	①健康によい食習慣を身に付けることに関心を持つことができたか。 ②五大栄養素の働きとその食品について理解することができたか。 ③食品に関する正しい知識を身に付け, 安全な食生活を実践しようとすることができたか。 ④食事摂取基準を理解し, バランスのよい一日の献立を考えることができたか。また, 調理技術の習得, 食の安全と衛生への関心を持ち, 実習に取り組むことができたか。 ⑤生活者として世界的な食糧事情を理解し, 環境に配慮した食の意識を持つことができたか。 ⑥日本の食文化を調べ, 伝承しようとする態度を身に付けることができたか。
第 2 学期	《単元》人の一生と家族 ①自分らしい生き方を考えよう ②家族について考えよう ③家族・家庭にかかわる法律を知ろう 《単元》高齢者とともに ①高齢者について考えよう ②高齢者とふれ合おう ③高齢社会と高齢者福祉を考えよう 《単元》人のつながりと福祉 ①私たちのくらしと社会福	《ねらい》 人の一生を生涯発達の視点でとらえ, 家族・家庭の意義, 社会とのつながりを理解させる。 《具体的活動》 ①講義 ②実習 ③調べ学習・講義 《ねらい》 高齢者に対する正しい認識から, 介護の基礎など体験的な学びと役割を知る。 《具体的活動》 ①講義・ディベート ②講義・実習 ③調べ学習・講義 《ねらい》 くらしを支える福祉のあり方を理解する。	①家族に関心を持ち, 生き方を考えながら, 自分のライフコースを描けたか。 ②人の一生から家族を考え, 家族の在り方に関心を持つことができたか。 ③家族に関する法律を理解し, 将来の設計に役立てようとすることができたか。 ①高齢者の特徴を理解し, 同じ目線で対応しようとする態度を身に付けることができたか。 ②高齢者の立場で日常介助を考えることができたか。 ③高齢者に対する実態や課題を考え, 高齢社会を理解することができたか。 ①社会福祉の実態を知り, 社会保障制度について理解することができたか。

	祉 《单元》子どもとともに ①保育について考えよう ②子どものすこやかな育ちを知ろう ③子どものくらしと親のかかわり ④子どもの福祉を考えよう (期末考査)	《具体的活動》 ①調べ学習・講義 《ねらい》 子どもの発達、保育、福祉をとおして、健全な発達を支える親や社会の役割を理解させるとともに、保育への関心を深める。 《具体的活動》 ①調べ学習 ②講義・実習 ③調べ学習・講義 ④調べ学習・講義	①命の尊さから出産を見つめ、保育に関することに理解を深めることができたか。 ②子どもの成長過程の理解を深め、知識を生かそうとすることができたか。 ③子どもに関心を持ち、親の役割と社会の関わりについて理解することができたか。 ④子どもの福祉について、少子高齢社会の側面から理解することができたか。
第3学期	《单元》快適な生活と環境 ①私たちのくらしと環境問題 ②持続可能な社会を目指して ③私たちができること 《单元》くらしのなかの「文化」 ①生活文化について考えよう 《单元》ホームプロジェクト (期末考査)	《ねらい》 家庭経済や消費生活の基礎的な知識を習得し、持続可能な社会を目指した消費行動へとつなげる。 《具体的活動》 ①講義・ディベート ②調べ学習・講義 ③調べ学習・講義・実習 《ねらい》 生活にある文化を見直す。 《具体的活動》 ①調べ学習 《ねらい》 二年間の学習から課題を見つけ生活に生かす。 《具体的活動》 ①課題解決学習	①くらしの中にある環境問題に対して、自分のこととして取り組むことができたか。 ②持続可能な社会とは何かを考え、行動に移そうとすることができたか。 ③できることを明確にし、環境問題を理解することができたか。 ①生活文化に関心を持ち、現代に合う取り組み方を考えることができたか。 ①生活課題を主体的に見出し、課題解決に向けて、学習によって習得した知識を適切に活用できたか。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について 以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。 《評価の観点及び内容》 1 「関心・意欲・態度」 家庭や地域の生活に関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけているか。 2 「思考・判断」 家庭や地域の生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけているか。 3 「技能・表現」 家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけているか。 4 「知識・理解」 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけているか。 (2) 評価方法について 具体的な評価方法として以下の三つの項目を数値化し、五段階で評価します。 1 「定期考査」 各学期末、計3回実施。(70%) 2 「提出物」 ノート、自己評価カード、作品、(20%) 3 「授業態度」 主体的・意欲的な取り組みが見られたか。(10%)	
--	--

平成24年度 音楽Ⅱの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	音楽Ⅱ	単位数	2	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	改訂新版 高校生の音楽2				

2 学習目標

◎ 音楽の諸活動を通して，生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，創造的な表現と主体的な鑑賞の能力を伸ばし，音楽文化についての理解を深める。〔要するに，音楽的な能力（楽器の演奏とか歌を歌うこととか音楽を聴くこととか）を高め，音楽好きな生徒を育てましょう！ということです。〕

3 学習方法

① 高校での学習の基本は授業です。先生の話をよく聞く，積極的に音楽に取り組む，課題をきちんと提出する，これらのことを着実にこなせば，どんどん音楽の力はつきます。 中学時代に音楽の授業が苦手，もしくは嫌いだった人もいます。歌が苦手，笛が苦手，音符読めないから嫌い…安心してください。本校の芸術の授業は音楽のみですので，様々な種類の音楽を行います。歌，リコーダー，鑑賞，楽典（音楽のルール）全てを初歩から行いますので，実技系が苦手な人は筆記系（楽典，鑑賞）を頑張れば大丈夫です。 初めからあきらめずに意欲的に取り組みましょう。 ② 演奏（歌唱）するにも鑑賞するにも「楽譜が読める」ことは重要な手がかりになります。楽譜を読めるように授業は進みますので，がんばりましょう。もちろん初歩の初歩から始めます。 ③ アルトリコーダーを使用しますので，必ず用意してください。 ④ 必要に応じて，実技テストと筆記テストを行います。実技テストは授業の中で，筆記テストは定期考査期間中に行います。実技テストが苦手な人は筆記テストを頑張る，筆記テストが苦手な人は実技テストを頑張る，両方苦手な人は，両方頑張るというようにすれば大丈夫です。

4 学習計画

学期	学習内容（单元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	歌唱 器楽（リコーダー）	日本の歌「Best Friend」 「島唄」 ドイツの歌「帰れソレントへ」 1学年時に学習した基礎の上に，より難易度の高い楽曲を演奏したり，アンサンブルに挑戦したりします。	・楽譜を読み，理解して，それぞれの楽曲の情景を思い浮かべながら表現（歌唱）できたか。 ・楽譜を読み，理解し，楽曲を演奏できたか。 ・自分の役割を認識し，友人たちと表現を「合わせる」ことを楽しみ，主体的にアンサンブルできたか。
第2学期	器楽（ギター） 鑑賞	アポヤンド奏法，アル・アイレ奏法を覚え，簡単な曲を演奏します。 オペラ 「カルメン」	・ギターの基本的な奏法を覚えたか。 ・タブ譜が読めるようになったか。 ・オペラについて理解を深め，鑑賞の結果，その音楽的印象を文章で表現し，共有できたか。

第 3 学 期	器楽・鑑賞（箏）	日本の伝統音楽を鑑賞し、実際に箏の演習をします。	・日本の伝統音楽について理解を深め、鑑賞の結果、その音楽的印象を文章で表現し、共有できたか。 ・箏の基本的な奏法を覚えたか。
	器楽（合奏）	・ギターやリコーダーを使い、グループで合奏します。	・自分の役割を認識し、友人たちと表現を「合わせる」ことを楽しみ、主体的にアンサンブルできたか。

5 学習評価

音楽の成績を評価するときに、最も重視されるのは日々の授業に取り組む姿勢です。

音楽は体育同様「実技教科」です。日々の授業で身に付けた力を試すためにテストをします。（笛の練習を普段の授業で一生懸命やらなかったら、笛のテストで良い結果は残らないですよ）

例えば、普段の授業で一生懸命苦手な笛の練習をしているけど、やっぱり笛は昔から苦手で、テストでは上手にできなかった、という人は、ちゃんと日々の努力を評価します。笛は得意だから普段の授業はサボっててもテストでは上手にできる、という人も、ちゃんと日々の努力を評価して、成績は悪くつきません。筆記関係も同じです。

もちろん、私語をしていたり、出歩いたり等の授業のルールを守れない人は、話になりません。評価の対象外（要するに1）になります。

平成 24 年度 体育の学習のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	体育	単位数	3	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	なし				
副教材等	なし				

2 学習目標

現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、生涯にわたり自らが運動を实践できる能力を身に付ける。また、正しい服装で安全に配慮し、時間・ルールを守り授業に取り組むことや各領域・各種目の特性を学び、協力・責任を果たし、運動を楽しむことができることを目標とする。

3 学習方法

様々な運動を通して、体を動かすことの楽しさを味わうとともに、周囲と協力しながら技能・体力を向上させる。また、自分の体の特徴を知り、どこが強いのか、どこが弱いのかまず把握し、自分に合ったトレーニングを組んで実践することができるようにする。体育理論から科学的に学び、体力向上や健康について意識し、実践する能力を養う。

4 学習内容, 学習活動, ねらい及び評価のポイント

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	集団行動	①姿勢②方向変換③集合、整とん、番号、解散④列の増減⑤開列⑥行進⑦礼	・基本動作（姿勢・方向転換・集合・整頓・番号・列の増減）ができたか。
	体力づくり運動	・ 体ほぐしの運動	・ 持久性、スピード、筋力の向上を目指し取り組むことができたか。
	男フットサル	・ 体力を高める運動	・ 自己の目標を設定し、目標に取り組んだり、チーム内で協力したりできたか。
	女ソフトバレー	・ 基本技術の習得	・ より長く、より速く泳げるように、自分の能力に応じて取り組むことができたか。
	水泳	・ ゲーム	
第2学期	男柔道	①クロール②平泳ぎ③背泳ぎ④バタフライ⑤横泳ぎ	・ 基本動作（姿勢・方向転換・集合・整頓・番号・列の増減）ができたか。
	女ダンス	男柔道①受身②投げ技③固め技	・ 持久性、スピード、筋力の向上を目指し取り組むことができたか。
	体力づくり運動	女ダンス①創作ダンス②フォークダンス③現代的なリズムダンス	・ 自己の目標を設定し、目標に取り組んだり、チーム内で協力したりできたか。
	・ 持久走	体力を高める運動（2km, 4km, 駅伝）	・ シングルス及びダブルスのゲームができたか。
	男卓球	・ 基本技術の習得	・ サービス、スマッシュ、ボレーができたか。
	女テニス	・ ゲーム	・ パス、キャッチ、トリプル、シュートができたか。
	選択	・ 基本技術の習得	・ サービス、パス、レシーブ、スパイクができたか。
第3学期	男バスケット、バレーボール	・ ゲーム	・ キャッチボール、バッティング、パスができたか。
	女ソフトボール、サッカー		
	男卓球	・ 基本技術の習得	・ シングルス及びダブルスのゲームができたか。
	女 テニス	・ ゲーム	・ サービス、スマッシュ、ボレーができたか。
第3学期	選択	・ 基本技術の習得	・ パス、キャッチ、トリプル、シュートができたか。
	男ソフトボール、サッカー	・ ゲーム	・ キャッチボール、バッティング、パスができたか。

平成24年度 世界史Bの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	世界史B	単位数	4	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	高等学校 改訂版 世界史B（第一学習社）				
副教材等	歴史風景館 世界史のパビリオン（とうほう）				

2 学習目標

世界の歴史の大きな枠組みと流れを，我が国の歴史と関連づけながら理解させ，文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

3 学習方法

- ①教科書の写真や地図などを参考に基本事項の確認を行う。
 ②プリントを利用し，重要事項への関心を高める。
 ③具体例を増やし，興味関心を促す。
 ④教科書などの事象についての質問などに，身近な事から考えて答える。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	序章 世界史への扉 1 生活の世界史	・スポーツと茶，暦と地図，世界史と日本史とのつながりについて追究することを通して，世界史学習への意欲を高める。 ・身近なものや日常生活にかかわる事柄を通して世界史とのつながりを見いだし，日本史が世界史とかかわっていることに気付く。	・スポーツと茶，暦と地図，世界史と日本史とのつながりについて追究し考察した過程や結果をレポートにまとめ，発表をすることができたか。
		2 世界の「時間」と「空間」のとらえ方		
		3 世界史と日本史とのつながり		
	5	第1章 諸地域世界の形成 1 人類の出現と文明の誕生	・人類の起源について関心を高め，農耕・牧畜の始まり，文明の成立の過程を理解し，基本的知識を身に付ける。 ・オリエントと地中海世界の風土，オリエント世界の展開，ギリシア・ローマ文明，イラン民族の発展に関する資料を活用し，基本的知識を身に付ける。	・人類の誕生と進化の過程を把握できたか。 ・地図・資料を用いて，オリエント世界・地中海世界を比較できるか。 ・オリエント世界・地中海世界の特色を風土をふまえつつ理解できているか。
		2 西アジア・地中海世界		
		3 南アジア世界の形成		
	6	4 東アジア・内陸アジア世界の形成	・東アジア・内陸アジアの風土，新石器文化，殷・周から唐までの中国王朝の変遷と，日本を含めた東アジア世界の国際関係，中国王朝と遊牧国家との関係に関する資料を活用し基本的知識を身に付ける。	・都市文明を特徴とするインダス文明について把握できたか。 ・インドに侵入したアーリア人が定住して諸国家を形成したことを把握できたか。 ・東アジアに成立した中華文明と内陸アジア世界の形成，国家の成立，遊牧民との抗争，唐の支配体制及びその制度を取り入れた日本などの国家形成の過程を理解できたか。

第 2 学 期	7	第2章 諸地域世界の交流と再編	・イスラーム成立の背景と特質、イスラーム世界の形成と拡大の過程、歴史的意義について考察する。	・イスラーム教の成立とアラブ人の活動、イスラーム法に基づくイスラーム帝国の拡大について把握できたか。イスラーム教の内容については深入りをさせたい。
		1 イスラーム世界の形成と拡大		
		2 ヨーロッパ世界の形成と変動	・ヨーロッパの風土、ゲルマン人の移動、西ヨーロッパ世界の形成、西ヨーロッパ封建社会、カトリック教会と文化、ビザンツ帝国と東ヨーロッパ世界の形成、都市の発達と王権の伸長に関する資料を活用し、基本的知識を身に付ける。	・西ヨーロッパの形成、キリスト教と人びとの生活、国王の中央集権化による封建制の定着などについて把握できたか。キリスト教の内容については深入りをさせたい。 ノート提出
	9	3 内陸アジアの動向と諸地域世界	・契丹・女真・モンゴルを中心とした内陸アジアの動向がユーラシア諸地域の交流と再編に果たした役割について考察する。	・13世紀のモンゴルが広大な地域を支配する過程を知ることができたか。また、日本が元寇の危機を乗り越えたことを把握できたか。
		第3章 諸地域世界の一体化	・16世紀～18世紀にかけてのアジア諸地域世界の社会や文化の特質について考察する。	・16～18世紀の中国と東アジアの情勢を把握できたか。
		1 アジア諸帝国の繁栄と成熟	・ルネサンス、大航海時代、アメリカ大陸の古文明とその後の変貌、宗教改革の動向に関する資料を活用し、基本的知識を身に付ける。	・新しいヨーロッパ文化としてのルネサンスを知ることができたか。アジア・中南米に物産を求めてヨーロッパ各国が進出したことを理解できたか。宗教改革については触れる程度とする。
		2 ヨーロッパの拡大と大西洋世界	・主権国家体制の特色、ヨーロッパ国際関係と商業覇権の推移、大西洋三角貿易の歴史的意義について考察する。	・国王による絶対主義と重商主義による植民地化を理解できたか。
	11	3 ヨーロッパ主権国家体制の成立		
		第4章 諸地域世界の変容	・アメリカ独立革命、フランス革命、ラテンアメリカ諸国の独立が相互に関連をもちながら起こったことを理解する。	・イギリスから始まる産業革命と、ヨーロッパ及びアメリカの革命による国民国家形成という社会変革について理解できたか。
		1 アメリカとフランスの革命	・産業革命がもたらした社会の変容について考察する。	
		2 産業革命	・ウィーン体制下の各地で自由主義・ナショナリズムの運動が高まり、イタリアやドイツなどで国民国家が形成されたことを理解する。	・ヨーロッパ各国によるアジア地域の植民地化、特に中国に対する利権争いの激烈化について把握できたか。
		3 19世紀のヨーロッパ	・先住民に対する抑圧、黒人奴隷制度や奴隷解放後の人種分離などが、現在まで続く人種差別の一因となったことを理解する。	
		4 アメリカ合衆国の膨張	・日本の明治維新とその後の近代化の動きがアジア諸国に与えた影響について考察する。	・日本で江戸幕府が倒れ、明治維新が起こったこと、日本の朝鮮進出を理解できたか。
		5 世界市場の形成とアジア諸国		

	12	6 帝国主義と世界の変容	・ヨーロッパ諸国によるアジア・アフリカの植民地化をめぐる競合とアジア・アフリカの対応の歴史的意義を考察する。	・ヨーロッパ各国の帝国主義をまねた日本の帝国主義の進展を把握できたか。
第 3 学 期		第5章 地球世界の形成	・第一次世界大戦後の世界の変化について、第二次世界大戦へとつながった問題点を含め、多角的に考察する。	
	1	1 第一次世界大戦と民族主義の展開	・ファシズムの特徴について理解する。	・未曾有の戦禍を引き起こした2度の大戦が、どのような社会情勢の中で起きたのかを理解できたか。
		2 ファシズムの台頭第二次世界大戦	・冷戦の背景について、第二次世界大戦中の国際関係も復習しながら多角的に考察する。	・大戦後の米ソ冷戦及び世界の政治情勢と植民地の独立について把握できたか。平和の大切さを理解できたか。
	---	3 米ソ冷戦と第三勢力	・東欧諸国の民主化とソ連の社会主義体制の崩壊について、その歴史的意味を多角的に考察する。	
	2	4 冷戦の終結と地球社会の到来	・現代の国際問題、国際協調の意義と課題について歴史的観点から理解し、その知識を身に付ける。	・現代の国際問題、科学技術の発達と現代文明に関する資料を収集・選択・活用するとともに、追究し考察した過程や結果をレポートにまとめ、発表することができたか。
	---	5 国際対立と国際協調	・情報化、先端技術の発達、環境問題などについて関心を高める。	
	3	6 科学技術の発達と現代文明	・これからの世界と日本の課題について関心を高める。	
		7 これからの世界と日本		

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す三つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評価に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は三つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 授業・教材に対する「関心・意欲・態度」	世界の歴史におけるさまざまな出来事に対して関心を持ち、意欲的に探求しようとする態度を身につけているか。
2 歴史に対する「思考・判断」	世界各地域の歴史におけるさまざまな人間の文化や政治について調べ、日本の歩みとも対比しながら論理的に考えて評価・反省することができるか。
3 世界の人間の歩みに対する知識・理解および表現力	世界の歴史を知ることによって、人間としてどのように生きていけばよいかを判断する知識を身につけ、表現できるようになったか。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	備 考
学習状況の観察	◎	○	◎	学習活動への参加の態度
提出物	◎	◎	◎	プリントなど
ノート	◎	○	○	年間5回提出
定期考査	○	◎	◎	年間5回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)

学 期	2		しろさを味わう。	たか。 プリントの提出。
	11	枕草子「ありがたきもの」	①出典について理解する。 ②何度も繰り返し音読する。 ③古語辞典を利用して、正確な解釈をする。 ④枕草子の類聚的章段の特徴を理解する。	①作品や作者について理解できたか。 ②正しく読むことができたか。 ③的確に古語辞典を引き、正確に解釈することができたか。 ④類聚的章段の特徴を理解することができたか。 プリントの提出。
		方丈記「ゆく河の流れ」	①出典について理解する。 ②何度も繰り返し音読する。 ③古語辞典を利用して、正確な解釈をする。 ④対句を理解する。	①作品や作者について理解できたか。 ②正しく読むことができたか。 ③的確に古語辞典を引き、正確に解釈することができたか。 ④対句を理解できたか。 プリントの提出
		漢文 「螢雪」 「守株」 「推敲」 「画竜点睛」	①返り点に注意して、訓読する。 ②書き下し文に直す。 ③解釈する。	①訓読することができたか。 ②書き下し文に直すことができたか。 ③語句の意味を確認しながら解釈することができたか。
第 3 学 期	1	「朝三暮四」 「蛇足」	①返り点に注意して、訓読する。 ②書き下し文に直す。 ③解釈する。	①訓読することができたか。 ②書き下し文に直すことができたか。 ③語句の意味を確認しながら解釈することができたか。 プリントの提出
	2			
	3			

5 學習評估

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す三つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評価に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は三つの観点と結び付いた具体的な評価基準と
考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 授業・教材に対する「関心・意欲・態度」	教科書・ノートをきちんと用意し、ワークシート等のプリントを提出したか。
2 読解力・表現力	内容を理解することができたか。
3 漢字力・語彙力	古語や漢語の意味を捉えることができたか。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

学習状況の観察・提出物・ノート・定期考査によって評価します。